

バイト・アル・ヒクマ

松浦 純子

ニュースに度々登場する闇バイトとヒグマを合わせたような名称の施設、日本語に訳すと「知恵の館」。

アッバース朝最盛期のカリフのハールーン・アッラシードは、アレクサンドリアのムセイオンの図書館に伝えられていたギリシア語の文献を首都バグダードに集めて新たに図書館を作った。そしてそれを息子で第七代カリフのマームーンが八三〇年ころ拡充したのが、このバイト・アル・ヒクマである。ここはギリシア語の文献をアラビア語に翻訳したり学問を研究したりする機関で、私たちがプラトンやアリストテレスの哲学、エウクレイデスの数学、ヒッポクラテスの医学などギリシア語の文献に触れることができるのは、イスラーム教徒がそれらを保護したからと言っても過言ではない。

ゲルマン人の侵入で西ヨーロッパは大きく破壊された。その時貴重な文献も無くなってしまった。運良く残ったのが、ゲルマン人が侵入しなかった東ヨーロッパに残された資料。イスラーム教徒は東ヨーロッパのビザンツ帝国からエジプトを奪い、ギリシア語の文献を手に入れた。

バイト・アル・ヒクマで翻訳されたのは「外来の学問」と言われる哲学、医学、幾何学、地理学などアラビア以外で発達した学問である。この機関で活躍した一人にフワーリズミーがいる。彼の正式な名前はアラブ人特有の父・祖父・曾祖父などの名前が入った長い名前で、最後の二語がアル・フワーリズミーである。彼はこの機関でギリシア語だけでなく、ヒンディー語で書かれた文献も研究し、彼が著した代数学の本は後にラテン語に翻訳されて、西ヨーロッパで十二世紀ルネサンスの一つになった。

彼の名前から、アル・フワーリズミー↓アルコア
リズミ↓アルゴリズムとなったのちアルゴリズムと
いうことばができ、コンピュータ・プログラムで使
われている。最近ではSNS利用者の閲覧履歴など
をもとに表示する情報を決める「アルゴリズム」が
問題になっている。



1983年 ソ連の切手
フワーリズミー

モンゴルが十三世紀中ごろにアッバース朝の首都バグダードを陥落させた時に、このバイト・アル・ヒクマも破壊されてしまった。